

「金沢マラソン 2018 ボランティア」

～「金沢市城北市民公園応援ステージ」での活動事例～

団体名：金沢星稜大学「城北市民公園応援ステージ」ボランティア 代表者名：池田幸應

1 はじめに（背景・目的・目標）

日本では、2015年10月に文部科学省の外局としてスポーツ庁が設置（5課：政策課、スポーツ健康推進課、競技力向上課、スポーツ国際課、オリンピック・パラリンピック課）され、2020年の東京オリンピック、パラリンピック開催を目前にスポーツ行政を統括的に推進する司令塔としての役割が期待されている。また、石川県、金沢市のスポーツ行政に関しても、石川県県民文化スポーツ部及び金沢市文化スポーツ局が再組織化され、県民・市民へのスポーツ振興策が推進されている。特に金沢市においては、金沢マラソン推進課、金沢マラソン組織委員会が設置され、金沢市のスポーツ政策の大きな柱として市民参加型の「金沢マラソン」が2015年度から実施され、今回で第4回を迎えた。

本学も第1回から継続的に学生、教員が複数関わっており、特にスポーツ学科では、2年次正課「フィールド基礎演習」において、金沢マラソンの運営サポートボランティアに全員がメンバーとして参画している。金沢マラソン開催に際し、本学は「金沢マラソンボランティア団体」として登録しており、加えて金沢市との連携協定締結（2018年3月28日）により、金沢市のスポーツ振興推進に向けて連携・協働を推進している。



写真1 「金沢マラソンボランティア団体」登録式での学生代表と市長

本稿では、今回で第4回目を迎えた「金沢マラソン2018」での城北市民運動公園「応援ステージ」における活動について記述する。

2 活動内容

- (1) 日時：2018年10月28日（日）
- (2) 場所：城北市民運動公園内「応援ステージ」
（スタートより31.4km地点）
- (4) 参加学生：金沢星稜大学人間科学部スポーツ学科 フィールド基礎演習プロジェクト学生（20名）、池田ゼミナール3・4年次学生（17名）、野外スポーツ部学生（58名）、金沢市「次世代リーダー養成塾（第6期生）」メンバー（10名）
- (3) 活動内容：応援ステージの運営及び沿道応援

金沢マラソン 2018 の城北市民運動公園「応援ステージ」出演団体は以下のとおりであった。

表1 応援ステージの「出演団体スケジュール」

城北市民運動公園内		「応援ステージ」	
出演順番	出演時間	<出演団体名>	中絶・中止 (学生)
	(10:00)	金沢マラソン実行委員会	
	10:10～	“風になれ”をダンス! (金沢星稜大学「Highway Star」学生6名)	中絶
①	10:20～	金沢星稜大学 Highway Star	／
②	10:35～	金沢大学 ダンス部	中絶
③	10:50～	チームきらら 02001・02002・02003・02004	中絶
④	11:05～	朝霞太鼓	中絶
⑤	11:20～	BABY☆HIPS	中絶
⑥	11:35～	金沢大学 ダンス部	中絶
⑦	11:50～	チームきらら 02001・02002・02003・02004	中絶
⑧	12:05～	朝霞太鼓	中絶
⑨	12:20～	BABY☆HIPS	中絶
⑩	12:35～	二ツ屋豊年太鼓	中絶
⑪	12:50～	野々市太鼓「結」	中絶
⑫	13:05～	二ツ屋豊年太鼓	中絶
⑬	13:20～	野々市太鼓「結」	中絶
⑭	13:35～	金沢星稜大学 Highway Star	／
	～14:00	金沢マラソン実行委員会	
	(14:30)	“風になれ”をダンス! (金沢星稜大学「Highway Star」学生6名)	

応援ステージの運営及び沿道応援に関して、学生間での役割分担により実施した。フィールド基礎演習プロジェクト学生及び池田ゼミナール3・4年次

学生については、今回の応援ステージ出演団体数 7 団体のうち、本学の 1 団体を除き、各チームとして担当割りし、応援ステージ団体サポートメンバーとした。また、野外スポーツ部学生については、会場周辺及び駐車場での沿道応援者への誘導、沿道応援者と応援ステージ出演団体の受付、応援ステージテント等の移動等を担当割りし、会場での応援環境サポートメンバーとした。なお、金沢市「次世代リーダー養成塾」メンバーは、沿道応援者と応援ステージ出演団体の受付サポートを行った。

金沢マラソンの応援ステージ会場は、2 ヶ所設定されており（西部緑地運動公園及び城北市民運動公園）、それぞれ金沢学院大学及び金沢星稜大学学生がその運営を担っている。なお、金沢市担当責任者と共に、筆者が会場の現場責任者として、学生への指導・助言を行っている。



写真 2(左) 応援ステージの当日準備を行う学生たち

写真 3(右) 会場での直前説明を行う筆者と学生スタッフたち

今回の応援ステージでの各出演団体は、1 回 15 分間×2 ステージが設定されており、その間の各団体へのサポート（出迎え、用具・装備の運搬移動、出演時間の説明・周知等）は、色別ゼッケンを装着したフィールド礎演習プロジェクト学生及び池田ゼミナール 3・4 年次学生が対応している。



写真 4 応援ステージでの出演団体の様子

野外スポーツ部学生の多くは、本エリアでのランナー到着以前の時間帯での応援ステージ環境準備を行ったため、その後は沿道での力強い学生応援チームとして、積極的にランナーへの応援活動を行った。



写真 5 沿道での野外スポーツ部学生によるランナーへの応援

3 成果、結果の考察

今回で 4 回目の応援ステージ運営サポート活動ということもあり、本学学生の役割分担化とその担当グループごとの事前打合せ等により、全体的にスムーズに応援ステージ出演団体へのサポートができ、各出演団体のメンバーからも“安心してスムーズに応援できました。学生の皆さんのおかげです。”との言葉も交わすことができ、信頼関係の深化にも繋がっている。特に池田ゼミナール 3・4 年次学生の中には、昨年度の応援ステージ出演団体への対応経験者もあり、加えて出演団体の多くが昨年度からの継続団体ということもあり、スムーズに運営サポートすることができた。

4 今後の課題、展望

金沢マラソンについては、効果検証が行われており、本学スポーツ学科教員 2 名（筆者、西村貴之准教授）もメンバーとして参加している金沢マラソン大学間連携プロジェクト会議においても、ボランティア側から改善点などが指摘されており、学生の学びやその専門性の深化は勿論、市民も含め、単なるマラソン応援に留まらず、マラソン応援活動を通してスポーツによる次世代人材育成や地域活性化の具体的流れへと繋がって行くことが期待される。なお、2019 年度より、金沢マラソンも含め、スポーツボランティアリーダー育成関連事業が計画されている。